

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2170400671 | | |
| 法人名 | 有限会社ジョイケアサービス | | |
| 事業所名 | グループホームジョイ | | |
| 所在地 | 岐阜県羽島市堀津町横手1丁目36番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年10月3日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年1月8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act_i.on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170400671-00&PrEfCd=21&Ver:si.onCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 旅人とたいようの会 | | |
| 所在地 | 岐阜県大垣市伝馬町110番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年11月23日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『生き活き』を理念に掲げ、日常生活を通して生き生きと活動できるように支援しています。調理・掃除・洗濯等の家事を職員や利用者同士が一緒に行い、お互いを支えています。職員のほとんどが地元に住んでいるため、地域とのつながりを持ちやすくなっています。町内行事に参加すると、自然に声をかけて頂き交流することができています。体調面でも事業所内の看護師と連携委託先の訪問看護師が協力し、きめ細かく対応できる体制を整えています。重度化した場合には、事業所でできることを都度家族に伝え、協力医の指示の下で看取りをした経験があります。入居後も家族や友人とのつながりを大切にできるよう、事業所が実施する外出行事や誕生会、夏のバーベキュー、新年会への参加を呼びかけ、家族や友人等と一緒に楽しむことができるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活全体を通して、利用者が自分のできる事を行ない、生き生きと生活できるように支援している。食事の献立や入浴時間など利用者の希望に合わせた対応をしている。系列事業所の音楽療法、習字・体操教室に参加したり、レンタカーを借りて外出したりしている。日常的には喫茶店・コンビニ・散歩に出かけるなど、外出支援を多く取り入れており、それが利用者の楽しみとなっている。地域の行事にも利用者と職員が一緒に参加し、地域とのつながりを深めている。管理者は、普段から職員の話をよく聞くように心がけている。夜勤のシフトを2パターン作るなど、シフトを職員の事情に合わせて複数作り、職員が生き生きと働けるように図っている。職員には長く勤めてほしい、との思いから働きやすい環境作りに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 『生き活き』『認め合い、支え合い』を理念として玄関にも大きく掲げられている。職員や訪れた家族、地域の人々にも理念の共有を図れるよう努めている。 | 管理者と職員は、利用者ができることは行ない生き生きと生活ができる事業所となるように努めている。利用者同士や利用者職員がお互い認め合い支え合えるように、ミーティングで確認しながら実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の町内会に属しており回覧板の回覧、ゴミ当番、役員も引き受けている。町内の盆踊り、運動会やクリスマス会、ふれあい祭りに招待を受けて参加し、地域の人々と交流をしている。 | 祭や新年会、盆踊、運動会など、地域行事に利用者と一緒に参加している。事業所に相談に来た地域住民の話を聞いたり、行事に参加した時に相談にのったりしている。近所の方が野菜を届けてくれることもある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 町内の行事に参加することで認知症の理解と認識を深めて頂くことができている。地域の方からの相談を受け対応について助言している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に一回の運営推進会議では事業所の状況報告と共に、今年度は特に非常災害時の対策についての意見を頂くことができた。 | 資料にもとづき事業所の活動内容などを報告している。防災について参加者に相談し、出された意見をもとに避難訓練の見直しを行った。家族の代表者にも出席してもらえるように声掛けするなど工夫している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に包括支援センターと市の職員のどちらかが参加して頂いている。また、市の担当者とは顔なじみの関係も築けている。 | 市役所に出かけていく機会は多い。出向いた時に担当者に事業所の現状報告と相談をしている。大雨の時に市の福祉課から安全確認の連絡があった。市に相談をして、ブロック塀をフェンスに変えた。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は夜間のみにしており施錠する意味も職員間で話合われている。また身体拘束未実施への取り組みについての研修も行っている。 | 年に2回、身体拘束についての職員研修を行ない、それをもとに日々の介護をしている。外部研修にも参加している。ミーティング時に外部研修の報告を行い、全職員に周知を図っている。玄関は施錠せずに鈴を付け、見守りすることで対応している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者は虐待防止についての知識を持ち、職員にも日頃から何が虐待につながっていくのかを考えるように勧めている。 | | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 過去の入居者に成年後見制度を利用されている方がいらっしまったため制度については理解している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の契約時には重要事項説明書、契約書を家族と共に確認しながら契約に至るようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 職員は利用者や家族と話しやすい関係を築けるよう努めている。また月に一度介護相談員が来訪し利用者からの要望等を聞き事業所側に伝えて頂いている。 | 家族の面会時に利用者の近況を報告し、意見や要望を聞いている。面会が少ない家族には電話やメールで状況の報告、意向の確認などを行っている。利用者の希望でおやつを自分で選んでもらうようにした。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 代表者、管理者共に職員と同じようにシフトに入っており、自ら体感もしている。職員からの要望や意見等を聞きやすい環境にある。 | 管理者は普段から職員の話聞くように心掛けている。表情に気になることがあると声を掛けるようにしている。ミーティングで意見を聞き運営に反映させている。要望から食材の管理を担当職員に任せることとした。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の努力、日頃の仕事に対する姿勢等を把握するよう努めている。また子育て中や介護中の職員に対しては勤務時間について柔軟に対応できるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格を持たずに入った職員には初任者研修を受けられるよう助成金制度の活用や勤務時間の配慮等を行っている。事業所内研修は計画的に行い職員の資質向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内にはグループホームの横のつながりを持つ機会が少なく職員相互の関係を作ることができていない。 | | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の事前面談でご本人の様子やご本人の話、生活歴を伺い、ご本人が安心して入居にすることができるよう環境の整備や受け入れ体制を作るよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の事前面談でご家族の話をお伺い、ご本人とご家族が安心して入居にすることができるよう環境の整備や受け入れ体制を作るよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談を受けた時にご本人の状態とご家族の意向をお伺い、在宅での生活を継続していけるよう他のサービスにつなげたことがある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 理念にあるように『認め合い支え合う』存在であることを実践できるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の支援について相談し共に連携を取っていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 毎年家族を招き夏にはテラスでのバーベキュー、冬には新年会の行事と一緒に楽しんでいる。同居されていた家族だけではなく遠方の娘さんたちや曾孫さんの参加もされ、ご本人との絆を感じている。 | 事業所のテラスを利用した食事会を行い、遠方の家族や他施設に移った利用者にも来てもらっている。利用者に帰宅してもらったり、同級生や親戚の方に面会に来てもらったりしている。再訪のお願いもしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 相性の良い利用者同士の席を配慮し良い関係が築けるよう努めている。 | | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院時より退去後の生活についての相談を受けて、家族と一緒に次の段階の受け入れ施設を検討していった。また他施設に移られた方を施設行事に招いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人から意向が聞ける方については本人に確認している。本人から聞けない場合は本人の生活歴や家族からの話を聞き取り、できる限り本人の意向であろう暮らし方に近づけていけるよう支援している。 | 1対1で散歩に出かけた時や入浴時に思いや意向を聞いている。困難な方には家族に確認したり、バイタルチェック時に把握したりしている。ミーティング時以外にも職員間で話をして情報の共有をしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人のアセスメントを実施し把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録や介護職員からの情報により把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランの作成時には本人と家族の意向を把握している。職員一人一人に担当を決め毎月のモニタリング実施と担当者会議を開催することでケアプランに反映させるようにしている。 | 利用者ごとに担当を決め、担当職員がモニタリングを行っている。個人記録やモニタリングの結果、利用者と家族の意向、医師の意見を踏まえた原案をもとに、ミーティングにて皆で話し合い介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録や夜勤日誌を通して利用者の一日の状態を把握し職員間で共有できている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 専門医にかかるための手続きや受診時の同行、他施設入居中の家族への面会をニーズに合わせて対応している。 | | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域包括支援センター、羽島市高齢福祉課、地域の役員、町内会、交番の署員等と馴染みの関係が築けており、個々の必要に応じて協力体制ができている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医か事業所の協力医を主治医にするかを選択して頂いている。認知症の専門医や皮膚科、眼科等受診には看護師や職員が家族と同行し本人の症状や状態について説明を行っている。 | 入居前からのかかりつけ医への受診は家族が同行し、事前に看護師が状態を家族に伝えている。認知症の専門医受診や緊急時には家族と共に看護師や職員が同行している。月2回の協力医による訪問診療がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調に異常があったときには職場内の看護師に連絡を取り、職場内の看護師は訪問看護師と連携を取って主治医につなげている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には速やかに情報提供を実施している。入院中にはこまめに病院を訪問し担当看護師から情報収集に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期について事業所の方針や対応について説明をし、本人と家族の意向を確認している。また、その時々々の状態に応じて家族、看護師、時には主治医を交えて方針を検討し、看取りの支援を行っている。 | 入居時に事業所の基本方針を本人と家族に説明し、同意を得ている。看取りの指針を作成している。状態の変化に応じて利用者や家族と話し合い、医師とも相談し支援の方針を決めている。事業所で看取りをする場合には家族が泊まることもできる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年、事業所内研修にて緊急時や事故発生時の対応について学ぶ機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回火災、地震を想定して避難訓練を実施している。最近では水害に対しても避難方法を運営推進会議でメンバーの方からの提案や助言をもとに検討している。 | 運営推進会議時に水害避難場所の確認を行った。避難訓練は利用者も参加し消火訓練も実施しているが住民の参加がない。夜間帯は職員一人での対応となる。夜間想定が1人では行なわれていない。水と乾パン、スूप、オムツなどを備蓄している。 | 避難訓練への住民の協力が得られるように努めていただきたい。夜間帯は職員一人での対応となる。夜間想定での避難訓練も、一人での対応で実施されることを期待したい。 |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人を尊重する声掛けや対応ができるよう努めている。不適切な対応があったときには、全体ミーティングで取り上げ職員全体の問題として話し合い、改善するようにしている。 | 排泄時や着替え時は居室のドアを閉めている。入室する時は必ずノックをしている。利用者がいない時には事前に了解を得ている。呼称はさんづけで、利用者に合わせて声かけや対応を心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人との何気ない会話から本人の思いや希望をくみ取れるよう努め、職員主導ではなく本人の自己決定できる場を設けるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 朝の起床時間や入浴の時間、日中の過ごし方等をできる限り本人の希望に沿うようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の希望によりカットやカラーを訪問美容師に依頼をしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の下準備や調理、盛り付け、後片付け等をできる人には職員と一緒にやっている。台所から聞こえる音や調理中のおいからも食事への意欲と関心が向けられるようにしている。 | 野菜の皮むきや盛り付け、後片付けなど、できる事を職員と行なっている。音楽を聞きながら、誕生日には希望も取り入れて、一緒に食事をしている。ホットケーキやゼリーなど手作りのおやつを作る機会も多くある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 主食のご飯をパンやうどんに変更する等、本人の好みと食欲に合わせて対応している。嚥下に問題のある方には歯科医からの助言も受けて刻み食やミキサー食の提供を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の歯磨きをして頂き、不十分なときには職員が手伝っている。希望者には毎週一回歯科衛生士による口腔ケア、歯科医による治療を受けられるよう支援している。 | | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | できる限りトイレでの排泄を支援している。個々の排泄のパターンをつかみトイレへ誘うことで失敗を減らしている。 | 排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう声かけや誘導をしている。便意がない利用者にはお腹の張りなどを確認し、マッサージの勧めや誘導を行っている。大きいパットから小さいパットに変更した利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ヨーグルト等の乳製品を食事に取り入れたり、適切な水分摂取ができるよう支援している。また便秘気味の方には腹部のマッサージや運動の勧めを実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 希望される方には毎日入浴を実施している。タイミングや声掛け、入浴後の飲み物を工夫し気持ちよく入浴ができるように支援している。 | 利用者の希望に応じ、毎日でも朝や夜でも入浴ができる。嫌がる利用者には声かけを工夫し入浴日や時間を変えて対応している。入浴剤や入浴後の飲物、ノンアルコールビールなどの用意もあり楽しみとなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の体調に応じて日中の休息の勧めをしている。夜間は廊下の照明が睡眠の妨げにならないように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬に関する情報をいつでも職員全員が見られるようにしている。服薬時には一人一人名前を確認して手渡すようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活の中で食材の準備や後片付け、洗濯物干し、日々の掃除等で一人一人の力に応じて職員と一緒にやっている。希望者は同法人のデイサービスでの習字教室、音楽療法にも参加している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 家族との外出の際に、配慮すべきことや起こりうることを書面にしたり口頭にて家族に伝えることで安心して出かけられるよう支援している。また近くのコンビニや馴染みのある喫茶店には職員が同行している。 | 天気の良い日には近くの公園や神社に散歩に出かけている。喫茶店、コンビニ、食材の買出しに一緒に行ったり、系列デイサービスでの音楽療法、習字・体操教室に参加したりしている。レンタカーを借りての外出に家族が参加することもある。 | |

グループホームジョイ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小口資金を預かり、外出の際にできる方には自分でお金を払うことができるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 友人への手紙のやり取りを通してつながりを感じて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 晴れた日には居間にたっぷり注ぎ込む日差しを浴びることができる。またエアコンを活用し、室温や空調に配慮している。花を飾ったりお雛様や七夕、クリスマス、正月等の行事に合った飾りをして季節を感じるができるようにしている。 | 玄関の下駄箱の上には利用者が生けた花を飾っている。リビングには職員と一緒に作った作品や散歩の時に採った花、松ぼっくりなど季節のものを飾っている。定期的に換気をし、ブラインドやよしずを使って日を遮り、居心地よく過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 狭い空間ではあるが、気の合う利用者同士の席の配置の工夫や、テラスのベンチの活用などをしてできる限り思いに沿った過ごし方を支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前に使っていた食器や筆筒や布団、家族の写真等、利用者の馴染みの物や家族の思いが込められたものを居室に置き、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。 | 使い慣れたチェストやテレビ、ソファ、布団を持ち込んでいる。冷蔵庫や位牌、パズルを持ち込んだり、習字などの作品や家族の写真を飾ったりして、利用者にとって馴染みのある自分らしい居室にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの位置を利用者の目線に合わせて示したり日付がわかるよう日めくりカレンダーをかけている。 | | |